うちの会社 独自いろ

安定板 伸びしろ無限

北村製作所 草刈り機の部品ヒット

重労働の草刈りを、軽快な運動に変えた部品がある。津市の農業園芸機具メーカー「北村製作所」が開発した「ジズライザー」は、草刈り機の回転刃に付ける安定板。発売から九年余りで累計二百万個を販売するヒット商品だ。「成長の伸びしろは限りない」。北村清司社長(七)は、さらなる飛躍を誓う。（池内琢）

雑草を根元から刈る、草刈り機。重い機械を持ち上げて動き回るため、すぐに腰や腕が疲れる。高速回転する刃で切断された草が周囲に飛び散り、処理にも苦労する。「重くて後始末も大変なんだ。何とかならないか」。十六年前、農家のいとこの一言が転機になった。

父親の清男さん（故人）と共同で一九七〇年に立ち上げた同社。当初は、大手電機メーカーの下請けとして配線器具や電機部品などを造っていた。「いつかは独自の製品を造りたい」。そんな思いが、胸に膨らんでいった時だった。

北村さんは下請け仕事で培った金属加工技術で何百回も試作を繰り返し、制御部品の開発に成功した。おかげで刈った草は飛び散らなくなり、農業専門紙で紹介されると全国から注文が殺到した。

生産態勢や販路を確立し、次世代商品として二〇〇七年に発売したのが、ジズライザーだ。円盤形でナイロン製の器具。草刈り機の刃の下に取り付け、地面に滑らせて使う。それまでも同様の部品はあったが、金属製で重く、長時間使い続けると腰が痛くなった。

「軽くて、全然疲れない」。ホームセンターなどで購入した客の評判は上々。現在はシリーズ計八種類をそろえる主力商品に成長した。

同社によると、草刈り機の世界販売台数は年間約二千万台。ジズライザーは、どのメーカーの製品にも取り付けることができるという。北村さんは「市場は広く、製品の魅力を海外にも伝えたい」と、意気盛んだ。

今年二月には、新シリーズ「HIGH（ハイ）五〇」を発売。雑草を根元からではなく、五センチの高さを残して刈り込める。あえて雑草を残すことで、クモやカエルといった生き物がいる環境を残すためだ。クモなどは、イネの害虫、カメムシを食べる。「自然のサイクルを利用すれば、農薬に頼らなくて済む。ハイ五〇はきっと、有機農業の発展を助けるはず」

「人の役に立つ仕事は楽しくてしょうがないね」と北村さん。見果てぬ夢がある。いつか、草刈り機を造るメーカーになることだ。

草刈り機の回転刃に装着した円盤状の「ジズライザー ハイ50」＝津市庄田町の北村製作所で

北村製作所　1970年2月創業。本社は津市庄田町。社員数は約20人。草刈り機の安定板や、野菜を育てる際に菜園の畝幅などを測るメジャーといった、農機具部品や園芸用品を製造。「ジズライザー ハイ50」は直径15センチ、高さ5センチ。希望小売価格は3800円。